特集　2017年秋のタカの渡り多点観察結果

2017年9月17日（日）に県内5ヵ所でタカの渡りの一斉観察会を行う予定でしたが、すべて小雨天のため中止になりました。しかし、当年も長岡周のタカの渡りの観察記録が小茂田英彦さんから寄せられましたのでここにまとめて報告します（別掲を参照ください）。

この関（9/13~9/27）、サシバ52羽、ハチクマ1羽、ノスリ1羽、計4羽のタカ類の渡りを確認しました（表1、2）。

小茂田さんのレポートの中で、次の記述に注目しました。「利根川右岸（伊勢崎市境島村）上空を通過するタカたちの渡ってくる方角（北から東）に注目して、東毛地区の観察地点を探し、9月24日、そこでタカの渡りの観察をめみました。この地点での観察は13時間30分（6：50~10：20）掛けましたがサシバ1羽の確認のみで終了しました。その日の午後は長岡町の自宅で観察を続け、サシバ8羽、ハチクマ1羽、ノスリ1羽、計10羽のタカ類の渡りを確認しました。」彼の新たな試みを、これはタカの渡りに関心を持っている我々にどうしたら成果が得られるのかを示してくれているのではないかとその実行力に敬服しました。

小生は以前、小茂田さんからサシバは北東町中野の上空を通っているはずだから視察してみたらどうか、という内容の手紙をいただいたことを思い出しました。そこで、データはだいぶさくなりますが一例を数り出してみることにします。

「8羽のサシバが自宅上空を渡る」

夜調除を干していた家人が「鷹が群れている」と知らせてくれました。慌てて双眼鏡を持って現代川ました。指差す方向はやや西の上空で、8羽の現野に旋回している4羽のサシバが入って来ました。向鷹で見ていた家人が数え始めサシバは8羽になりました。しばらく経を眺めていたサシバがこちら直撃を始めました。彼らは北東の方角からやって来て、我が家のやや西で旋回して南西の方角へ飛んで行きました。タカの判明もこれくらいとまって眺めと見応えがあります。

自宅上空でのサシバの渡りの確認は2000年10月6日（晴、8：46~8：50）の7羽（西の方角へ渡去）以来のことです。タカの判明は出現ではなく渡去を確認できません。しかし、ここ数年の観察で後等が東毛の平野を渡っていることが掴々に分かってきました。

サシバが飛び去った後（10：20）、ヒヨドリ6羽の渡りがみられました。方角はサシバと同じでした。ヒヨドリのそれは比較的見やすいので（鳥が多く、眺やかに鳴きながら低空を飛ぶ）、野鳥の渡りのルート解明の手掛かりになると思われます。野鳥の行動も何がどう関係しているのかよく分かりません。気付いたことはその度ツメやカンニュ…、これに限ります。こういうっかりして、書き忘れて後悔することが多いのです。

（2006年9月30日、晴、穏ふい、寒霜あり、10：18~　邑潮町中野）

自宅上空を渡るサシバの記録はさの後あります。その時間になると1時ゑ蔦に出て背空を見上げるのですが、その程度では中サシバに遭遇できるもので はないのですね。

小茂田さんには何度もお会いしているのと喋れわてしまいそうです。

終わりに本題意に即物されたが、ならびにデータを提供してくださった方に厚く御礼を申し上げます。

<データ提供者>　（敬称略）
小茂田英彦（伊勢崎市）

P.S.鳥類が恐竜から進化したことについて興味を持ったのなら、ぜひ本ウチにお聞かしたい記事がありましたのでご設会します。

特集：恐竜から鳥へ
1　羽根と翼の進化　5.プルサット
2　見えた！恐竜の色　6.ティンマー

B話サイエンス　2017.06.

1の文末がクラククする文章なので読快してみます。

「どうやら、飛行可能な小型恐竜が進み立てられるとすこに、つまり宇宙太陽エが完成したとた、途方もない進化の可能性が解き放たれるように。これらの枝葉恐竜は皆い生態学的ニッチ社会を作ニ入れた。

そして自能記和に武器的な鋼石が開石が地球に出現した間、鼎鳥類恐竜はその頑城的な前型に対応できなかったが、凸恒はこの大陸誕生後び越えて生き延び、その先に圧倒すべき新しい世界を見つけたのだった。」

論説協力　古川泰々子、監修　川島　宮

2も興味そそりの可見活動で関しまは応なになってください。

（まとめ　　堀口　悠馬）

表1　観察地と観察時間及び天気（2017年秋）

No.	観察地	市町村	月日	観察時間	天気	観察者	人数
1	牛伏山	高崎市	9/17	中止	雨	土屋等	1
3	大室公園	前橋市	9/17	中止	雨	小林農員	1
5	城沼	館林市	9/17	中止	雨	松本文雄	2
6	榎山公園	藤岡市	9/17	中止	雨	小芦主市男	1
7－1	境島村(利根川)	伊勢崎市	9/13	8:20~10:20	晴のち快晴	小茂田英恵	1
7－2	長沼町(利根川)	〃	9/19	8:30~11:00	晴のち快晴	小茂田英恵	1
7－3	〃	〃	9/20	8:20~10:00	曇	小茂田英恵	1
7－4	境島村(利根川)	〃	9/22	7:30~9:40	曇	小茂田英恵	1
7－5	長沼町(利根川)	〃	9/24	12:20~14:00 15:00~18:30	快晴	小茂田英恵	1
7－6	〃	〃	9/25	7:10~9:40 12:40~13:20	晴	小茂田英恵	1
7－7	〃	〃	9/26	7:10~10:20 13:00~14:40	快晴	小茂田英恵	1
7－8	〃	〃	9/27	8:30~9:40	曇	小茂田英恵	1
8	洗川総合公園	洗川市	9/17	中止	雨	飯塚浩	2

表2　タカ類の観察数(2017年秋)

月日	No.	観察地	サシバ	ハチクマ	ノスリ	計
9/13	7－1	境島村利根川)	1	0	0	1
9/24	7－5	境島村利根川)	8	1	1	10
9/25	7－6	長沼町(利根川)	13	0	0	13
種別計			22	1	1	24

2017年秋、館林市の北端でタカを待つ十自宅で

小茂田　英彦

毎年代わり映えのしない報告で内心心苦しく思っております。過去の報告のとおり、利根川右岸（伊勢崎市境島村）で見ていますと、タカの多くは北から東にかけての方向より来ん"で来ます。

そこで、当地より東で、なおかつ北に位置する地点（もちろん群馬県下）で、タカの渡り多点観察公式行われる見角神社公園にどこかいい所はないかと、地図（国土地図）をにらみ続けてみた結果、「ここは？」と思われる場所を見つけました。グーグルマップで周辺の環境の状況もチェックし、「これは、行ってみる価値がある」と、9月6日少し小雨もパラついていましたが、下見に行ってみました。

行く（見る）前は何がこっけてでうそ？が、「こうだろうな、ああだろうな」と思い浮にばかり想像してしまい、実際の当たりにすると思惑とは大きく異なり、大抵がっかりしてしまうものです。

しかし、なから眺い坂を上り詰めひっくり返ず、想像していた以上にいい所です。自転を若ろ不隠こそ心いものの、東・南は宮ヨ？もが広く360度見渡せます。そこは鎮座市の北端、矢場川・渡良瀬川の堤防と（関連等)館林市、高崎大橋高速を右に入った宮辺神社付近）で、サイクリングロードやゴルフ場等への進入路に利用されていはるものの、車止めの所などに他の人の姿認とならずに眺も駐車ていました。ちなみにここから南へ4kmほど離れたところが尾鬼神社になります。

「ここは出るんじゃないか」と大いに調査して帰路につきました。

で、調査時して24日けてつきました。後悔することのないよう8時60分に到着して待つ。昨日の天気と違い、昭れていていい条件だ。

7時43分、上空あまり高くないところを羽ばたいて1羽上成へ、少し行った所で旋回する。サシバだ。まだあまり上昇気流が発生しないから、羽ばたきを交えてその点まま上昇方向へ（北西になる）、帯光の小い出だしに「これは、どんなん来そう」と期待が高まる。が、あは！国ちんやその後10時20分まで待ってみたが全く出ない。この日昨晩さらは現晩村の何盗川右岸で観察していたが、サシバ8羽程だそうで、まだ惜しいのか。

早々に切り上げて午後は自宅で、炎のお日り12時・13時引は午は9だめ。でも、諦めきれて14時から再開する。15時9分やっと1羽上空に出る。ノスリだ。これは出ちく雷前に旋回していった。と、上空高弦のタカが現回していく。6羽いる。1羽はハチクマで、あわててカメラを部屋から取ってくる。少し高くなってしまったが、まだ見回していて会ぼで8羽いるようだ。そのまま観察へ、とりあえずセンズンり見られて一安心。

25日も自宅で。7時51分、上空に1羽出たサシバは、十数回旋回していた。早い時間から見られ、今日は期待が持てそうだ。8時53分、少し東寄りの上空にサシバ9羽、生憎まとまったタカ柱にはならず、300mmでも3羽位しか入らなかった。これは南へ消翔していった。

26日、27日と全く飛ばず、今シーズンを終了した

表1　2017年タカの渡り判明回数観察数（各約55分ごとの観察時間）

9月13日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
境島村	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0					0	1(北)計
		サシバ	1	0	0	0	0	0				1	
利根川	(南)	その他	0	0	0	0	0	0				0	
		小計	1	0	0	0	0	0				1	
9月19日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0	0			0	
利根川	(南)	サシバ	0	0	0	0	0	0	0			0	
		その他	0	0	0	0	0	0	0			0	
		小計	0	0	0	0	0	0	0			0	
9月20日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0					0	
利根川	(南)	サシバ	0	0	0	0	0	0				0	
		その他	0	0	0	0	0	0				0	
		小計	0	0	0	0	0	0				0	
9月22日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
境島村	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0				0	
利根川	(南)	サシバ	0	0	0	0	0	0				0	
		その他	0	0	0	0	0	0				0	
		小計	0	0	0	0	0	0				0	カウス対応
9月24日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼	(北)	ハチクマ	0	0	0							0	
利根川	(南)	サシバ	0	0	0					0	0	0	1
		ノスリ						0	0	0		0	
		その他						0	0	0	0	0	8
12時00分～14時00分								0	0	0	0	0	1
15時00分～18時30分		小計						0	0	0	0	1	9
9月25日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利根川	(南)	サシバ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
7時10分～9時40分		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12時40分～13時20分		小計	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
9月26日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利根川	(南)	サシバ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
7時10分～9時40分		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13時00分～14時40分		小計	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
9月27日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
利根川	(南)	サシバ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
8時30分～9時40分		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
9月13日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
境島村利根川	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		サシバ	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		小計	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2	13
9月24日		7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	小計	合計
長沼利根川	(北)	ハチクマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		サシバ	0	0	1	3	1	0	0	0	0	5	22
		その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		小計	0	0	1	3	1	0	0	0	0	5	24

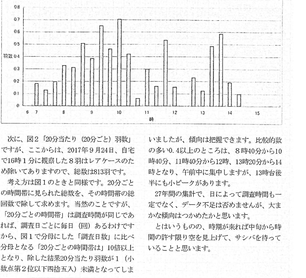
利根川(坂東大橋から境島村付近)における サシバの渡りのピークについて

小茂田　英彦

1991年から利根川でサシバの渡りを調査（観察）して27年、何となく9月下旬が一番見られると感じていますが、実際渡りのピークはいつなのか、また、その時間帯はどういうことで、この調査期した総数821羽を日別と時間帯別に分けて分析してみました。

まず、図1「日別合計羽数と1日当たり羽数）のグラフを見ますと、19日と24日が85羽でたまたま同数です。では中旬も多く数とは言っているのでしょうか。調査でもお日数は27年間で必ずしも同じではありませんから、単純にこれをもって判断することはできません。そこで、比較できるよう1日当たり羽数を出してみます。19日に調査できたのは、27年間で14回（日付と鈴ちわいいので固とします）、24日が同16回のため、1日当たりの羽数は、24日の9羽（小数点以下四捨五入、以下同じ）に対し、19日は6羽となります。これは前後（18日、20日）のそれぞれ4羽とそれほど顕著な差には思われません。一方、22日は13羽、23日は9羽、25日は13羽で、渡りのピークは22日から25日の4日間となります。

図1　日別合計羽数と1日当たり羽数　　総数821羽(1991年～2017年)



＊9月9日以前と、10月5日以降は、観察してない日があるため、日付が連続していない。

図2　20分当たり(20分ごと)羽数　　総数821羽(1991年～2017年、ただし16時台除く)

次に、図2「20分当たり（20分ごと）羽数」ですが、ここからは、2017年9月24日、自宅で16時1分に観察した8羽はレアケースのため除いてあります。総数1813羽です。

考えては図1のとおと同様です。20分ごとの時間帯に当るため総数を、その時間帯の総羽数で除して求めます。当然のことですが、「20分ごとの時間帯」は調査時間が同じであれば、調査日ごとに毎日（回）あるわけです。図1で9時に（「調査日数」）に4ヶ分掛とかる「20分ごとの時間帯は」16回以上とかり、除した結果20分当たり羽数が1（小数点第2位以下四捨五入）未満となっていました。傾向は把握できます。比較的数の多い9、4以上のところは、8時40分から10時40分、11時40分から12時、13時20分から14時とかり、午前中に集中しますが、13時台後半にもいくピークがあります。

27年間の集計で、日によって調査時間も一定でなく、データ不足は否めませんが、大まかな傾向はつかめたかと思います。

とはいうものの、時間が来れば中旬から時間の中ず間り空を見上げて、サシバを待っていることと思います。